

御所市義務教育学校建設に関する基本設計及び実施設計業務(趣旨書)

御所市では、少子化の進行に伴い、各小・中学校の過小規模校化や学級数の減少が進み、子どもたちの多様な学びや協働の機会が制限されつつある。良好な教育環境の確保という課題は年々複雑化し、学校運営の努力だけでは解決が難しい状況が生じている。こうした中で、学校現場、地域住民、保護者の皆様と議論を重ね、「子どもたちの学びの質を将来にわたり確保するためには、学校の再編と新たな教育環境の整備が必要である」という結論に至った。

新たに整備する義務教育学校は、単なる建物の新設ではなく、御所市の未来をつくる基盤となる教育環境の整備である。子どもたちが互いに学び合い、多様性を尊重し、自らの可能性を広げながら成長することを支える場・地域との関わりの中で新しい学びを創出する場、新しい時代の教育にこたえる場・そして災害時には地域の安全を支える場。それらを同時に満たす“学びの環境”を目指している。

■御所市が求める「目指す設計者像」

本事業の設計に携わる皆様には、次のような姿勢・視点を強く期待する。

1. 子どもたちの成長と教育の本質を第一に考える設計者
単に空間をつくるのではなく、「どのような環境が子どもの学びを深め、成長を支えるのか」を中心に据え、教育的効果を最大化する提案ができること。
2. 御所市の歴史・文化・地域性に敬意を払い、丁寧にこたえる設計者
複数の学校が紡いできた伝統や地域との結びつきを誠実に読み取り、それらを新しい学校に“どう継承し、どう昇華させるか”を真摯に考え抜く姿勢をもつこと。
3. 市民・子ども・教職員の声を聴き、対話を大切に作る設計者
利用者の声に耳を傾け、現場の感覚を大切にしながら、より良い解決策を模索し続ける姿勢を持つこと。
4. 持続可能性・安全性・地域防災を高い次元で両立させる設計者
ZEB、環境配慮、防災機能、維持管理しやすさなど、未来に責任ある計画視点を備えていること。
5. 制約を創造の源とし、価値へと転換できる設計者
敷地制約、建築物の高さ制限、周辺環境、安全、動線など、御所市特有の条件を十分理解し、制約を創造的に解決しながら、より高い価値を生み出す提案力を備えていること。
6. 建築経費の適正化と価値向上を同時に追求できる設計者
建設物価高騰や限られた財源の中で、単なるコスト削減ではなく、代替案の提示、仕様の最適化、機能の整理、維持管理を見据えた判断等を通じて、限られた予算で最大の価値を創出する視点と実行力をもつこと。

■設計業者の皆様へ

本事業は、御所市にとって大きな決断であり、未来への責任を果たすための重大な一歩である。その根底には「子どもたちに、最良の学びの場を提供したい」というゆるぎない思いがある。この思いは、学校現場、市民、地域、議会、行政、多くの関係者が時間をかけて積み重ねてきた議論の中で育まれてきたものである。

本プロポーザルに参加いただく設計者の皆様には、どうかこの御所市の思いを深く受け止め、本業務の使命について心から共感し、理解の上、専門性、創造性、子どもを思う優しさ、地域を尊重する姿勢をもって、誠心誠意取り組んでいただきたい。